

地区別ドラフト指名 ランキング	ドラフト関連度
28位タイ 熊本県 10人	総合
34 位タイ (9人)	C
34位タイ 奈良県 9人	野手 C
	投手 C

岩手県

7月7日～20日(岩手県営野球場ほか)

千厩・千葉以外にも公立校投手が面白い
打の盛岡大付、植田のスイングは格別だ

投手編

公立投手が大豊作だ！

例年であれば一番手で名前が出てきそつなのは私立のエースだが、今年に限っては公立校の投手が魅力的だ。公立にこれだけ好投手が揃った年は今まで記憶にない。

2年時からエース格として投げまくり、集大成の時を迎えた「公立140キロ台三羽鳥」の一番手は千葉英太(千厩)。昨年の春季県大会で1試合23奪三振を記録し、岩手県高校記録を塗り替えた。最速144キロのストレートと外角低めに決まるスライダーが武器だ。春季県大会では、関学院と対戦し、2対3の惜敗。本領を発揮する前に姿を消してしまっただのは残念。



注目投手

千葉英太(千厩)

「三羽鳥」のうち2人は岩崎颯人(黒沢尻工)と中村彪(久慈工)。2年時に140キロの太台を超え、ストレートとスライダーのコンビネーションが中心。右上手投げ、と共通した投球スタイル。順調に成長を遂げており、この夏は大仕事をやってのけそうなお配が漂う。

千葉 中村の2人と公式戦で対決し、投げ勝ったのが佐藤大起(関一)だ。球速では「三羽鳥」には及ばないものの、投球術、駆け引き、度胸で勝負。佐藤の一番得意なボールは打てるものなら打つてみるという「肝っ玉」である。春季県大会で株を挙げたのが、宇部堅人、高柳涼(ともに久慈)だ。宇部が試合を粘り強く試合を作り、最速140キロを誇る本格派・高

柳が締めくくると。この両輪ががちり噛み合い、久慈は春季県大会準優勝を手にした。岩城大夢(大船渡東)は創部初となる東北大会出場に導いたエース。低めにボールを集めるコントロールに価値がある。

公立の好投手をはるかに上回る実績で際立つのが三浦瑞樹(盛岡大付)。夏春合わせて、甲子園で6試合投げている左腕だ。同校には平松竜也、臼井春貴という両右腕も揃う。三浦がキレで勝負すれば、平松と臼井は勢いで押しまくるパワーピッチングが持ち味。さらに松本裕樹(ソフトバンク)の弟・跳馬は、コントロールの優れた好左腕。まだ2年生だけに、その将来が楽しみだ。

岩手県の主な注目選手

守備	名前	所属	学年	身長	体重	投打	評価	コメント
投手	佐藤 大起	関一	3	168	67	右右	C	背番号は昨年秋の10から今年の春は11に。成長曲線を描いて最後の夏へ
投手	岩城 大夢	大船渡東	3	169	72	右右	C	チームを創立初の東北大会へ導いた大エース。僚友・佐藤飛勇も好投手
投手	中村 彪	久慈工	3	172	64	右右	C	潜在能力全開といかないのがもどかしい。最後の夏にインパクトを残す
投手	千葉 英太	千厩	3	172	64	右右	C+	岩手の奪三振マシン。「完成品」とも言われるストレートとスライダー
投手	平松 竜也	盛岡大付	3	183	83	右右	C+	僚友・三浦瑞樹と切磋琢磨。最速145キロを誇る岩手随一の本格派投手
投手	三浦 瑞樹	盛岡大付	3	175	72	左左	C	甲子園6試合登板と経験豊富。140キロの太台を超え、本格派左腕に成長
捕手	松田 夏生	盛岡大付	3	180	80	右右	C	強豪の肩の要。恵まれた体格から繰り出される打球は美しい弧を描く
二塁手	小椋 元太	関学院	3	175	76	右右	C+	下級生の頃から攻守走で注目を集めてきた。甲子園しか見えていない
遊撃手	比嘉 賢伸	盛岡大付	3	180	82	右左	C+	盛岡大付を引っ張る主将。打撃はもちろん、遊撃守備でもチームの要
外野手	植田 拓	盛岡大付	3	165	72	右右	C+	通算50本越えの長距離砲。機動力、守備力も見どころの万能プレーヤー